

家主通信  
拝見

太陽ハウス (千葉県松戸市)

約1870戸を管理する太陽ハウス(千葉県松戸市)ではオーナー通信「たいようらいふ」を発行している。発行部数は約1200部、A4サイズオールカラーの冊子で全8ページ立て。年4回発行の季刊誌で、8月に発行された最新夏号が第7号だ。

毎号大きな特集を2つ組む。前号は「高専賃」と「相続税」、今号は「太陽光パネルを設置し売電で収益アップ」と「更新料」だ。制作を行うのは賃貸部。普段オーナーと接する機会が多い部署だからこそオーナーの知りたい情報を取り上げることができる。そして、会社の事業戦略とすり合わせて、企画を練る。特集内容についてのオーナーからの反響は毎回大きいという。

初回から行っている人気企画は、オーナーインタビュー



特集内容には毎回大きな反響がある

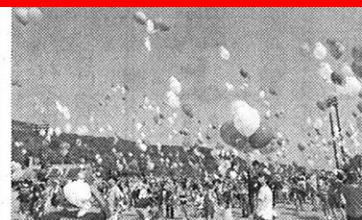
「松戸に縁あり」だ。オーナーと同社の付き合いの経緯や、賃貸経営に対する取り組み事例などをインタビュー形式で紹介している。オーナー所有物件の管理を担当している賃貸部の担当者からの一言コメントが載っていることも特徴。「『たいようらいふ』のサブタイトル、『オーナー様と太陽ハウスを結ぶ ふれあいの情報誌』を旨とする紙面作りのための工夫の1つです」(鈴木啓二朗取締役部長)

また、読みやすく馴染みやすい紙面作りを目標とし最新号からは新連載も開始した。「松戸の魅力再発見～まつどてくでく散歩」だ。口語調で書かれており、写真も多くの掲載されている。地元の名産品なども紹介し、気軽に読めるコーナーになっている。

「一方的な情報発信にせよ、オーナー、入居者、テナント三者にとってメリットのある情報発信ができれば」(鈴木取締役部長)

「復興にはまだまだ時間がかかります。今後でも出来ることを行っていきたい」(黒沢社長)

▶14時46分に死亡者、行方不明者の総数8330個の風船を空に飛ばした



▶多くの方がボランティアに参加した



不動産販売、仲介、管理を行うライズグループ

ライズグループ 女川町の盆祭りにボランティア参加

ライズ(東京都新宿区)は被災地ボランティアの一環として、8月15日に行われた「がんばっぺー女川盆祭り」の運営を現地ボランティア団体と協力して行った。主催は宮城県牡鹿郡女川町、開催場所は女川町総合運動場。

同社社員をはじめ、同社の黒沢社長が実際に見に行ったとき居催する団体「人生成功塾」からもボランティア希望者が集まり、計20人での参加となった。

「私の妻は女川町出身で自宅を津波に流されました。義父母は避難できませんでした。親戚でなくなった人もいます。女川町の状況を実際に見に行ったとき居ても立ってもいられないくなりました」(黒沢社長)

震災後、支援物資などのボランティア活動を行ってきた。今回は、被災した町民に普段なかなか食べられないようなおいしい食材を提供したいという思いから、プロの料理人を同行してパスタやお好み焼きの屋台を出店。地元の盆祭りを通して、少しでも元氣になってほしいという多くの人の想いから実現された。当日の来場者数は約1500人だった。